

大正十三年一月

茅原華山稿（內觀掲載）

後為伯耆と京都復興費

東京市日比谷公園 市政會館內

後藤新平伯傳記編纂會

電話銀座

(57)

〇〇〇

〇二二

九〇〇

六二一

番番番

振替口座東京六一六三三番

(内觀二月号掲載)

經國の學と術とを論じて

後藤子爵に共ふ

富士山麓大宮にて 茅原華山

後藤子が審議會で叩

れ、衆議院で叩叩ながらも、帝都

復興計劃を攫んで放ち、兎

に角曲りなりにも之を通過し、

東京横濱の両市民に巨億の財

用と共にたのは實際大出来で

あつたといはねばならぬ。

當時子と訪ふて辞職を

勧告するものがあつた。子は例の

調子で「俺は敵の中へ飛び

込んで金を出せといふのだ。値切

らうは當り前だ、俺は三十三

文でも可いから世間はすにはお

かない、辞職して堪まるものか」

文でも可いから世間はすに

かない、辞職して堪まるものか

と答へたといふことだ。

子が大事を托するに足る

政治家であることはこれで証明

されたのだ。いかに子を危険

かる人でも、子が大事に臨んで

恐ろしく辛抱強い人であると

いふことを覺つたであらう。

公平に評して、子が脱線す

るとは考へられないが、子は時々

芝居と遣り過ぎる。政治家に

演劇的手腕のないものは到底

政治として最高藝術たらしむ

ることが出来ないが、ネバリ強い

北國人に似合はないで時々芝居

と遣り過ぎる。

不敬事件當面の責任者

として子は當分謹慎生活暗

晦生活と營むであらう。これ

として子は當分謹慎生活暗

晦生活と營むであらう。これ

は余の深く子の爲めに祝す

る所である。西人がいふ通り

アンエキス、ペラテット、タルウエース、ハツアンス
人生には待設け^{ない}こと常

に起る。全く待設けないことの

爲めに、計らずも謹慎し、暗

晦せねばならなくなつた。子たる

ものは此謹慎期、暗晦期と國

家と國民との爲めに最も有益

に有効に利用せねばならぬ。

子は好んで科學をいふ。

然しながら經國といふ觀點か

らへば、科學は哲學の侍婢^{ハンドメイド}

である。經國の學が哲學なら

ば、經國の術が科學である。

科學と經國の用に供し、所謂

民生民の爲めに命を立つる

ものたらしめんとすれば、先づ

民生民の爲めに命を立つ

ものたらしめんとすれば、先づ

綜合統一の大経綸かなけれ

ばならぬ。

若し徳川家康と武人経

國家（ソージャー、ステーツマン）

であるとするれば、伊藤公は詩

人経國家（ホエト、ステーツマン）

である。日本は今や哲人経國

家（ヒロソフ、ステーツマン）を要

する一大時機である。子なんぞ

自ら猛然として哲人経國家

と為らざる。

子は臺灣、長春、大連

が自大慢である、子が帝都

復興計劃の爲めに韓信股

くいりを遣つたのも、亦臺灣

長春、大連を計劃した心を以

つて遣つたに相異なる。太田

道灌は江戸城を築いた、

つて遣つたに相異ない。太田

道灌は江戸城を築いた。

後藤新平は科學的新

東京市と造つたといふ抱負

もあり。他日は臺北に於ける

が如く、東京市にも子の銅像

が建設されるであらう。

然しながらこれが國家國民

が方に沉淪せんとする現代の日

本の政治家の成すべき最高

能事であらう。が。臺灣と

御自慢なところ、長春と御自

慢なところが、俺は日本と斯う

救つたといふ御自慢は未だ一度

も聞いたことがないが、政治家

としては此御自慢がなくてはな

らぬ譯ではないか。政治家

は製圖技師ではない。叩き大

工ではない

は、制度、技術、師、で、は、な、い、口、を、

工ではない

武人経國家たる家康は

百姓の國日本の百姓を半殺

しにして其家門の繁榮を

三百年の長きに維持した。

詩人経國家たる伊藤公

は憲法政治といふ夢を編

んで、遂に日本を総潰亂状

態（ゼネラル・カラプス）に陥らし

めた。人間を改めずして徒らに

制度を興へた。人間が到底

之を運用されないといふ事實

をば今や眼の前に暴露し

来つた。

後藤子にして若し哲人

経國家たらんとすれば、先づ

日本國民史と一覽すれば可い

のである。王朝時代は宗教と

結び附いた藝術精神を發揮

のである。王朝時代は宗教と
結び附いた藝術精神を發揮
した。人民は唯佛宇佛像と
造るが爲めに存在した。

武門時代は戰鬪精神を
發揮した。非常に處する道
徳精神を發揮した。百姓は
斬り捨て御免といふ天^か下
にも恐ろしき精神を發揮し
た。非常に處する道徳精神
であるから、平生に處する道
徳精神は皆無である。

日本の歴史は是の如く藝
術精神と戰鬪精神とを

發揮した歴史であるが、未だ
曾て一度も生活精神を發

揮したことがない。生活精神
とは人間自ら其生活と樹立

して、平生に處する道徳を發

とは人間自らの其生活と樹立
して、平生に處する道德を
揮するの謂ひである。

是に於てか子にして苟も哲
人を経國家たうんとすれば、日本
國民として生活精神を發
揮せしむることを根本とした
経綸を案出せねばならぬ。

然しなから經國の學が既
に立てば、經國の術なるものは
決して多岐のものではない。

簡單にして明瞭なものである。

今日各省が割據し、各局
各課が割據し、而して各官
吏が分裂孤立して居るのは、
此經國の根本義が立つてゐ
ないからである。

子が主管せらるゝ（若しく

ないからである。

子が主管せらるゝ、（若しくは主管せられた）内務省に就いて取調べた所に據れば、日本の出生率は明治四十四年の人口千に對する三十四・五と最高とし、近年低下の趨勢にある。出生率の多いのは必ずしも喜ぶべき現象ではないが、試みに其死亡率と臨児よ。

明治四十四年より大正十年に至る最近十年に於ける趨勢を見るに、大正二年の人口千に對する十九・四と最低とし漸次増加の傾向を示してゐる。

單刀直入的にいへば、乳児及び幼児の死亡率は歐米諸國に類のない最高率を示してゐる。乳児及び幼児の死亡率

國に類のない最高率を示して
ある。乳児及び幼児の死亡率
に於て世界の一等國なのであ
る。

肺結核其他諸種の疾

患が著しく蔓延して居るの
も事實である。

結核は主として都會に

蔓延して居るが、農村には人

體寄生蟲があつて農民の八

割五分は此寄生蟲に取附

れて居て、左なまでに榮養

不良の農民として層一層榮

養不良に陥らしめてゐる。

平均年齢の短きに於て、

日本は世界の一等國。

若い女が肺病に罹かつて

死ぬもの、数が若い男よりも

多いのだ。これは希臘羅馬

死ぬもの、数が若い男よりも
多いのだ。これは希臘羅馬
以来西洋には例のないことだ。

此現象は一言ひは人生哲
學的に考へて見るべきも
のではないか。

内務省では此現象に驚
いて何を違ふかといへば、保健衛
生調査會を設けたとか、農
村保健衛生實地調査
と施行したとか、地方に補助
費を交附して寄生害虫の驅

除をさせたとか、結核豫防法
と制定して、六大都市に

結核療養所を設けたとか、
衛生展覧會を開いたとか、

醫師會、衛生會、青年團

婦人會に何うしたとか言ふに

醫師會、衛生會、青年團

婦人會に何うしたとか言ふに

過ぎない。萬殊の施設が

あつても、根本が立たないから

要するに糊塗緘縫であつ

て、施設益す多くして實

効は少しも舉がらない。日本

政府の爲す所は皆此調子

で、盛んに浪費と遣つてゐる。

獨り衛生施設のみではない。

哲學的に考へるといふは何

ういふ意味かといへば、日本國

氏は二千年の長き歴史に於

て一度も生活精神と發揮

したことがないから、日本國民は

一面には自己の健康に注意

しない國民、自己の肉體には

極めて無關心の國民であること

と相反するのである。既に

極めて無關心の國民であること

と看取するのである。既に

自己の健康に注意しない

自己の肉體に無關心であ

ることとは、同時に其産

業が貧弱である所以で

あることを看取するのである。

保健衛生と産業とを別々に

取扱つてはならない。

萬化が一根ならば、萬

弊も一根である。衛生の施

設益す盛んにして、國民の健

康益す哀へ、而して商工業

は振はず、農村が疲憊困

頓の極に在つて、而も自ら一

大回轉と為す能はざるは、

日本國民が眞に生活精神

を發揮しないからである。

此大識見あり大眼界

日本國民が眞に生活精神
を發揮しないからである。

此大識見あり大眼界

あらば、日本國民も起死回

生せしむる必ずしも難きに

あらず。

聯絡も統一もなき間に

合せ人氣取りの政綱政策

とやらを田舎のデパートメント、

ストア的に排列するは歴代

の内閣の爲す所である。其

結果財政徒らに膨脹して、

人心益す潰乱し遂に政

治其物までが潰乱せずんば

已まない。

余は現在の群大群衆

政治家の中、此理を會す

もの唯子あるのみならず知り、

文七

の内閣の爲す所である。其
結果財政徒らに膨脹して、
人心益す潰乱し、遂に政
治其物までが潰乱せずんば
已まない。

余は現在の群大群衆
政治家の中、此理を會す

るもの唯子あるのみならず知り、

敢て此言を爲す、余は

子が決して之を河漢視

せざることを信ぜんと欲す。